



しっとりとした空気に緑の香りが漂う季節となりました。今年は春先から寒暖差が激しい気候が続いています。コロナもまだまだ猛威を振るっていますが、皆様、体調に不安はありませんか？グリーンには、看護師や理学療法士、作業療法士、言語聴覚士といった医療専門職がいます。それぞれの特徴を生かしながら、利用者様の様々な生活スタイルに寄り添った対応が可能です。病気や障害に関することはもちろんですが、「生活まるっとお手伝い」がグリーンの信条。時には、電球交換や庭の手入れも請け負います。これからも利用者様やご家族が、ご自宅で気持ち良く生活できるよう応援していきます。ぜひ、よろず屋グリーンにお気軽にご相談ください！

グリーンからハッピーニュース発信！*BOTANICAL 特集*パート2

先月に続き、第2弾！様々な植物と素敵な笑顔をお届けします。



(左から)

【前橋・H様】5月上旬、満開を迎えたのは、目の覚めるような鮮烈な赤色のツツジの花。「太陽」という品種の通り、その場がぱっと明るくなり元気が出ますね。H様、相変わらずお美しい♡タカラジェンヌのようです。

【前橋・T様】奥様が丁寧に育てている牡丹が綺麗に咲きました。ちょっぴり腰が重たいT様も、この日は牡丹を見ながらお庭までスイスイと歩く練習ができました。とても仲が良く、優しいご夫婦のツーショットは心が和みます。ぜひまたお庭を散歩しながら、ご自慢の草花を紹介してくださいね。

【前橋・G様】屋外散歩中、藤が綺麗に咲いていたので記念撮影。雨降り以外はなるべく毎日、午前午後と散歩を日課にされています。この日もいつもの散歩コースを案内して下さいました。時々、飛び出している雑草を引っっこ抜きながら歩くこともあるとか(笑)。ワイルドな面もちらつく、チャーミングなG様です。美肌やスッと伸びた背すじは運動習慣の賜物ですね。これからも続けてください。草むしりボランティアも頑張っています！



(左から)

【前橋・Y様】4月に84歳になりました。リウマチに負けず、いつも明るく出迎えて下さいます。お庭に咲いていたのは、Y様のように場の雰囲気をもっと明るくしてくれる黄色の牡丹。Y様にも牡丹にも元気をいただいています。

【桐生・M様】毎回好評のM様とお花シリーズ。白い藤は、敷石や枝、雑草などの歩きにくいゾーンを突破して辿り着きました。お花好きの娘様がたくさんの植物を育てているM様庭園。目指せ、撮影スポットコンプリート！

【みどり・M様】オリジナリティ溢れるフラワーアレンジが毎回素敵です。今春も季節を感じられる作品が玄関先に登場。可憐さとダイナミックさが融合された生命力のみなざる作品です。お見事！

※写真の掲載はご本人の許可を得ています。

グリーンからハッピーニュース発信！

訪問先は、ご本人らしき満載！

趣味や特技、思い出話を通して信頼関係を築いていきたいと考えています。



(左から)

【伊勢崎・A様】いつも穏やかな笑顔に癒されています。認知症がありますが、身の回りなことや家事をご本人らしく続けていけるよう支援しています。脳トレや気分転換として、塗り絵をご提案しました。あまりの完成度の高さに担当もびっくり!! A様の素敵な一面をまた一つ知ることができました。ぜひ、また別の作品を見せてください。楽しみ♪

【前橋・T様】掲載が遅くなってしまいましたが(ごめんなさい)、繊細な色づかいが見事な塗り絵作品です。現在も継続して取り組まれています。色のチョイスや陰影の付け方が本当に綺麗ですね。最近の作品、また投稿してくださいね。

【前橋・O様】毎月、季節の手作り作品で賑わうO様宅玄関。5月は端午の節句にちなんだものがずらり。大作もあつという間に仕上げってしまう達人O様。6月の玄関飾りも楽しみです♪

♡好きなことや得意なことは、「体・頭・心」を動かします。
時が経つのも忘れてしまうような幸せな時間を…
時には一緒に探しながら、ご提供していきたいと思っています。

HAPPY BIRTHDAY



【前橋・H様夫妻】1月、2月にそれぞれお誕生日を迎えました。ご夫婦でご利用いただいています。いつも一緒、仲睦まじいお二人です。これからも美男美女カップルを応援させていただきますね♡

NEW ★ STAFF



5月9日より、新しい仲間が加わりました！
理学療法士の綿貫拓哉です。出身は昭和村。今年の3月まで原宿の病院で働いていた、シティボーイです。若き精鋭、大志を抱いて頑張ります！
よろしくお願ひします。

投稿コラム第24弾(前橋・K様) 長編連載でお届けします！

「三分の一の記録 その2」

その後も、生死の境を何度か彷徨いながら成長した。死線をくぐると人は強くなるのだろうか。小学生になった私は、すっかりやんちゃ坊主と化していた。五年生の時、同級生の松崎君と取っ組み合いのケンカをした。頭を下駄で殴られ、四十個以上のたんこぶができた。母は、たんこぶの数を数えながら、私を叱った。

また別のある日、近くの山でチャンバラごっこをして崖から飛び降り、膝を負傷した。血を流したまま家に帰った。たまたま居合わせた祖父に見つかった。背負われ、近所の外科に連れていかれた。七針縫った。松葉杖をついて登校した。和式トイレでは足を伸ばして用を足した。当時は、怪我をした後のリハビリ治療などなかった。通っていた剣道場での正座がその代わりとなった。曲がりにくくなった膝は、知らぬ間に元通りになった。荒療治だった。(その3へつづく)

